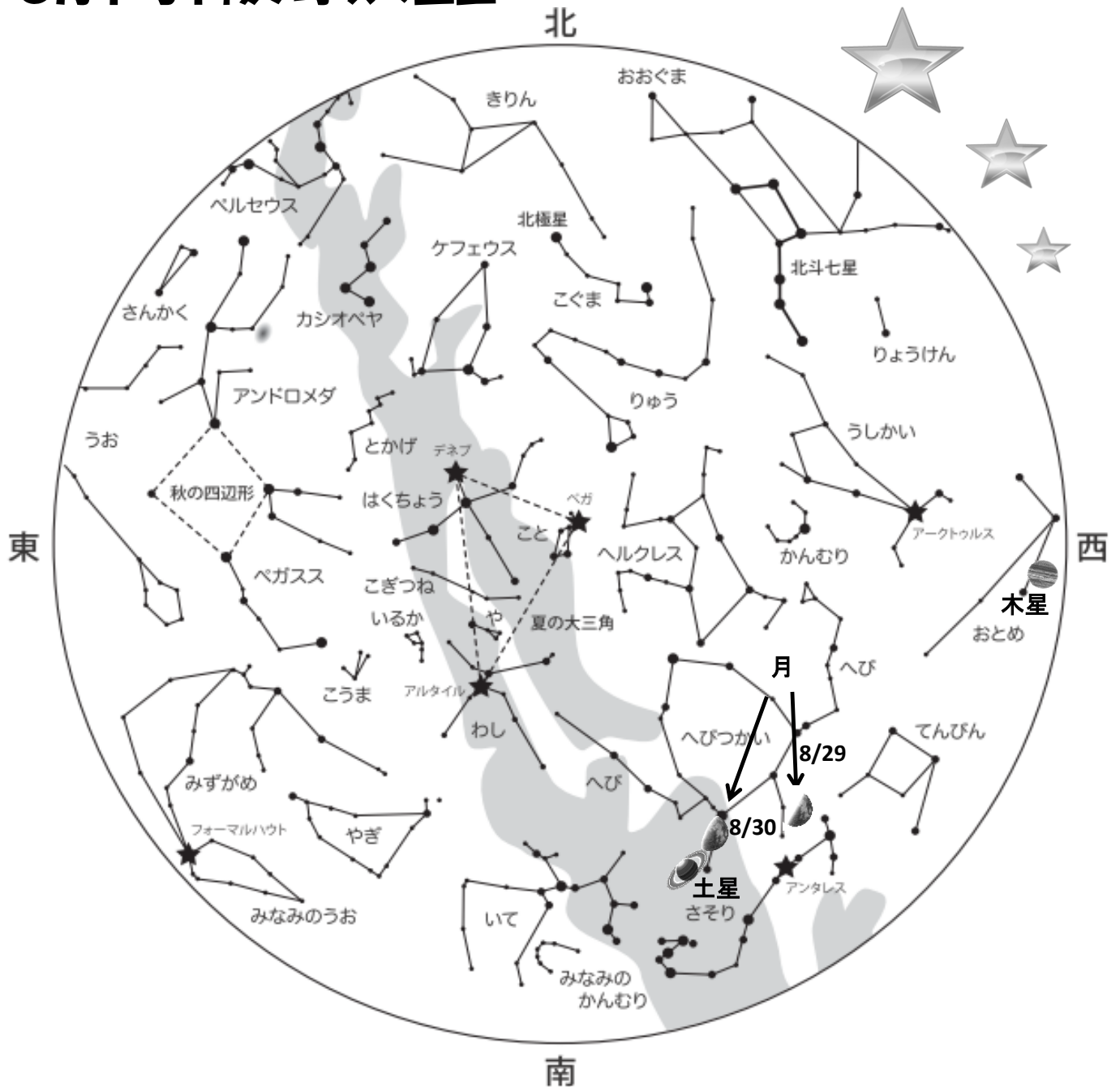


松江市立天文台～夏休み(8月)の天文教室～

平成29年 8月29・30日

8月下旬午後9時頃の星空～



8月も末になると少しずつ秋の気配が感じられてきましたが、日没後の夜空には、こと座のベガ、わし座のアルタイル、はくちょう座のデネブで形作る「夏の大三角」がちょうど真上に見えています。はくちょう座のくちばしにあたる「アルビレオ」は色の対比が美しい二重星です。南の空でひときわ目立つ星は「土星」です。リングのある美しい姿をぜひごらんください。

8月下旬午後9時頃の星空です。

木星と土星は8月下旬の位置を、月は8月29日と30日の両方の位置を示しています。

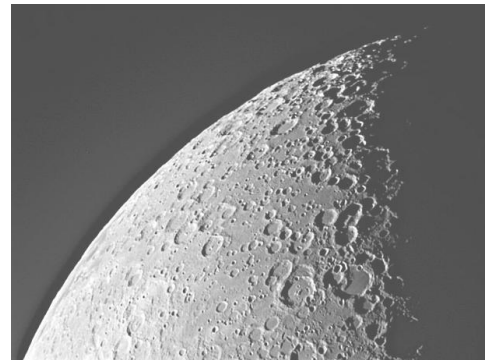
各天体の見かけの大きさは強調してあります。

この星図で星を探すときは、見る方角を下にしてみましょ。

もっとも身近な天体~月

月は地球からの距離が約38万キロ、地球の周りを約27日でまわっています。天体望遠鏡でクレーターのある雄大な表面地形を観察することができます。

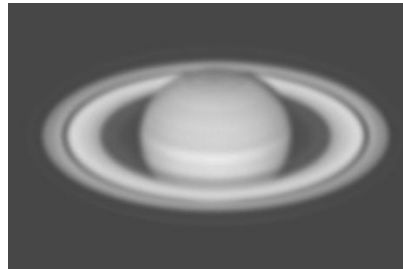
月には、新月、三日月、上弦の月、満月など、その形により色々な呼び名がつけられており、私たちの生活や文化にかかわりの深い天体です。



美しいリングが印象的~土星

土星は直径約12万キロ(地球の約9.5倍)もある巨大な惑星です。

美しいリングの正体は、数mmから数10cmの氷や岩石で、リングの厚さは数百mとされています。すこし離れて土星最大の衛星タイタンも見られます。



衛星(えいせい)タイタン



土星

天体望遠鏡で見た土星と衛星タイタン

夏の大三角

二重星アルビレオ

はくちょう座にある代表的な二重星で、明るいほうが金色に、暗いほうが青色に見えます。

星の色の美しさから「空の宝石」とも言われています。

夏の大三角は、夏を代表する三つの一等星が作る三角形です。

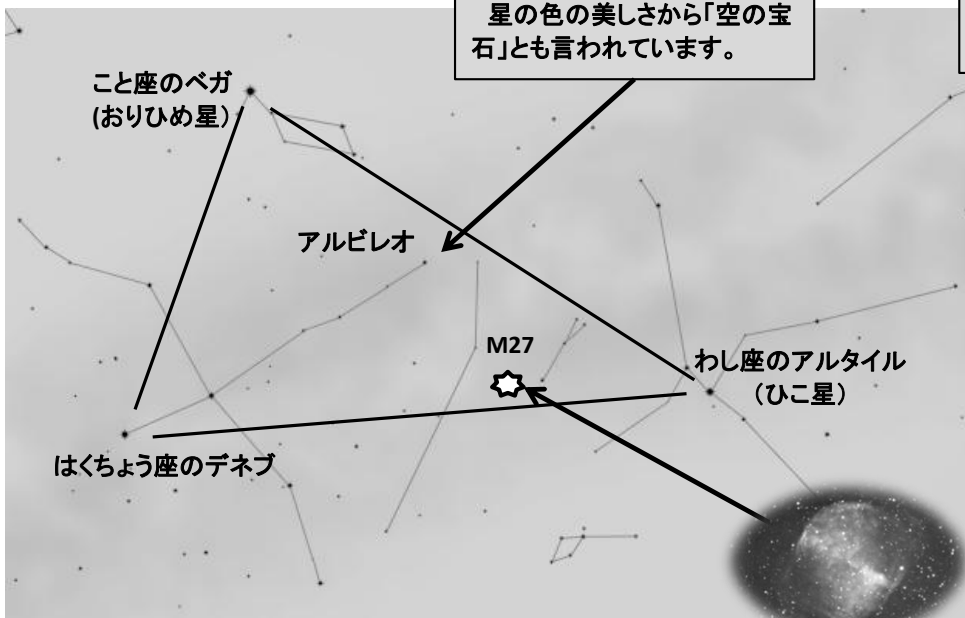
七夕伝説では、ベガが「おりひめ星」、アルタイルが「ひこ星」にあたります。

M27

星が一生を終えて、表面のガスが広がって丸く惑星のように見える星雲を、惑星状星雲といいます。

M27はその代表的な天体のひとつで、私たちから970光年の距離にあります。

小型の天体望遠鏡でも、夜空に浮かぶ雲のように見え、その形から、あれい状星雲と呼ばれます。



資料のデータは天文年鑑、アストロアーツから引用しています。使用する天体望遠鏡によっては、視野の上下左右が逆に見えます。また、空のコンディション(雲、透明度)により、天体の見え方は違います。

9月の天文教室

開催日 9月27日(水) 20時から21時まで
(受付は19時30分から市役所正面玄関で行います。)
事前の予約は不要です。



★
MAC

Matsue Astronomy Club

松江星の会